

■ 超高齢社会への対応

■ 「スマートプラチナ社会」の構築

【主な経費】 スマートプラチナ社会構築事業(新規) <25補正> 15.5億円 <26当初> 1.7億円
脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発 <26当初> 5.0億円

- 超高齢社会におけるICT利活用の推進方策として以下の施策を通じて、生産年齢人口の減少や医療費の増大等、超高齢社会がもたらす課題の解決に貢献。
 - ① 高品質で低廉な医療を実現するため、全国数カ所で医療機関等の情報連携のモデル実証を行い、医療情報連携基盤の全国展開を推進
 - ② 生活習慣病等の発症・重症化予防のため、ヘルスケアポイントを用いた大規模社会実証装を行い、ICT健康モデル(予防)を確立
 - ③ 多様で柔軟な働き方の確立・普及に向けた実証等を行い、新たなワークスタイル(テレワーク)を実現
 - ④ 高齢者がICTを使ってコミュニティで活動できる社会環境を実現するための実証を行い、ICTリテラシーの向上を推進
- 「ICTによるライフイノベーションへの貢献」として脳科学の知見を応用し、手足・言語を介さずネットワークを通じて機器・器具等を制御する技術等、高齢者・障がい者の社会参加の拡大等を促す研究開発等を実施。
- 2020年には23兆円規模の高齢者向けICTを活用した新産業を創出。

医療情報連携基盤の全国展開



ICT健康モデル(予防)の確立

